

国立民族学博物館研究報告 vol.18-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	18
号	4
発行年	1994-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009195

1993—18_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

●
航海術と海の空間認識

——中央カロリン諸島・Satawal島における事例 —— 秋道智彌

篠田資料・鮎アンケートの予備的分析 —— 久保正敏, 大島新一, 日比野光敏, 和田光生

Bangladesh農村における一方的贈与と社会関係

——タンガイル県, M村のムスリム集落の事例より —— 西川麦子

From Oral to Written Form: A Tentative Study of

the Development of Swahili Poetry —— Said A. M. Khamis



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

18 卷 4 号

1993 年

目 次

航海術と海の空間認識

——中央カロリン諸島・Satawal 島における事例——秋道智彌.....543

篠田資料・鮎アンケートの予備的分析

.....久保正敏, 大島新一, 日比野光敏, 和田光生.....593

バングラデシュ農村における一方的贈与と社会関係

——タンガイル県, M 村のムスリム集落の事例より——西川麦子.....649

From Oral to Written Form: A Tentative Study of the Development

of Swahili PoetrySaid A. M. Khamis.....697

彙 報735

国立民族学博物館研究報告 18 卷 総目次743

国立民族学博物館研究報告寄稿要項745

国立民族学博物館研究報告執筆要領746

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 18 No. 4

1993

AKIMICHI, Tomoya	Cognition at Seas: Navigational Knowledge in Satawal, Central Caroline Islands, Micronesia 543
KUBO, Masatoshi OHSHIMA, Shin-ichi HIBINO, Terutoshi WADA, Mitsuo	A Preliminary Analysis of Shinoda's Sushi Questionnaire 593
NISHIKAWA, Mugiko	One-Way Gifts and Social Relations Among Rural Muslims in Bangladesh: A Case Study from a Village in the Tangail District 649
KHAMIS, Said A. M.	From Oral to Written Form: A Tentative Study of the Development of Swahili Poetry 697

彙 報

(平成5年10月～
平成5年12月)

人事異動

(行政職)

(転任)

12月1日 茨城大学庶務部庶務課長
小島 栄基
(管理部庶務課長)

(昇任)

12月1日 管理部庶務課長 河野 克俊
(文部省高等教育局大学課教育
大学室附属学校係長)

(教育職)

(配置換)

10月1日 第五研究部助教授 久保 正敏
(京都大学助教授)
第五研究部助手 園田 直子
(国立歴史民俗博物館助手)

(客員研究部門)

10月1日 第四研究部助教授 落合 一泰
(茨城大学助教授)

(外国人客員研究部門)

10月1日 第五研究部教授
TABAN, Lo Liyong
(スーダン共和国, スーダン国
立ジュバ大学教授)
<任期5.10. 1～6. 9.30>

シンポジウム

◎特別研究「20世紀における諸民族文化の伝
統と変容シンポジウムⅡ 映像文化」

期間 平成5年10月13日(水)
～10月15日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、「映像文化」をテーマに、
20世紀の文化に影響をあたえた映像
メディアについて、活発な討論がお

こなわれました。

シンポジウム委員会

実行委員長

大森 康宏 国立民族学博物館第五研究
部

実行委員

田村 克己 国立民族学博物館第二研究
部

端 信行 国立民族学博物館第三研究
部

泉 幽香 国立民族学博物館第五研究
部

新免光比呂 国立民族学博物館第三研究
部

南 真木人 国立民族学博物館第三研究
部

森 明子 国立民族学博物館第三研究
部

事務局

江藤 靖弘 国立民族学博物館管理部研
究協力課国際協力係

今田 好子 「20世紀」事務局

報告者

大森 康宏 国立民族学博物館
落合 一泰 茨城大学
国立民族学博物館<客員>

小長谷有紀 国立民族学博物館

高田 公理 武庫川女子大学

野村 雅一 国立民族学博物館

浜野 保樹 放送教育開発センター

増成 隆士 筑波大学

松岡 環 シネマ・アジア

公開講演者

山口 昌男 東京外国語大学

金 洙 容 映画監督(大韓民国)

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館

奥野 卓司 甲南大学

熊倉 功夫 国立民族学博物館

竹村 真一 東北芸術工科大学

田中 雅一 京都大学

国立民族学博物館<客員>

田村 克己 国立民族学博物館
 端 信行 国立民族学博物館

族文化の比較研究 第5回シンポジウム
 洗練と粗野—社会関係を律する価値観—
 期間 平成5年11月22日(月)

～11月26日(金)

日程

10月13日(水)

10:00 登録

(司会:端 信行)

11:00 あいさつ 佐々木高明
 経過報告 石毛 直道
 問題提起 大森 康宏

(司会:端 信行)

13:00 「映像の時代」の映像のステイタス
 —知のメディアとしての映像につ
 いて— 増成 隆士

(司会:熊倉 功夫)

14:15 生活と映像の文化史 高田 公理
 (司会:熊倉 功夫)

15:45 映像表現のテクノロジーを
 浜野 保樹

10月14日(木)

(司会:田中 雅一)

10:30 映像文化と言語 野村 雅一
 (司会:田中 雅一)

12:45 映像に記録された20世紀の時間—
 モンゴル映画「ぼくはモンゴルの
 子」から— 小長谷有紀
 (司会:田村 克己)

14:15 民族と映像—インドの場合—
 松岡 環
 (司会:田村 克己)

15:45 まなざされるラテンアメリカ地
 域間文化関係のヴィジュアルゼー
 ション— 落合 一泰

10月15日(金)

(司会:大森 康宏)

10:00 総括討論 コメント:端 信行
 (司会:端 信行)

14:00 公開講演 大森 康宏
 山口 昌男
 金 洙 容

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民

場所 国立民族学博物館

摘要 今回は、「洗練と粗野—社会関係を
 律する価値観—」をテーマに、権力
 とはべつに社会関係が秩序づけられ
 る価値的要因について、社会の全域
 へと視野をひろげ、活発な討論がお
 こなわれました。

シンポジウム実行委員会

実行委員長

清水 昭俊 国立民族学博物館第四研究
 部

実行委員

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究
 部

上杉 富之 国立民族学博物館第二研究
 部

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究
 部

立川 武藏(事務局長)
 国立民族学博物館第二研究
 部

田村 克己 国立民族学博物館第二研究
 部

長野 泰彦 国立民族学博物館第五研究
 部

松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
 部

事務局

江藤 靖弘 国立民族学博物館管理部研
 究協力課国際協力係

下浦 摩紀 「アジア・太平洋」事務局

報告者

網野 善彦 神奈川大学短期大学部

王 崧興 千葉大学文学部

小野澤正喜 筑波大学歴史・人類学系

春日 直樹 奈良大学社会学部

金 一鐵 ソウル大学校社会学科(大
 韓民国)

兼 報

栗田 博之 東北学院大学教養学部
 清水 昭俊 国立民族学博物館
 清水 展 九州大学教養部
 関 一敏 筑波大学歴史・人類学系
 関本 照夫 東京大学東洋文化研究所
 国立民族学博物館〈客員〉
 染谷 臣道 静岡大学人文学部
 高木 智見 山口大学人文学部
 高橋 昌明 滋賀大学教育学部
 田辺 明生 日本民族学会
 速水 洋子 日本民族学会
 山本 幸司 神奈川大学短期大学部
 吉岡 政徳 神戸大学国際文化学部

討論者
 熊倉 功夫 国立民族学博物館
 佐々木高明 国立民族学博物館
 杉島 敬志 国立民族学博物館
 須藤 健一 神戸大学国際文化学部
 藤井 知昭 国立民族学博物館

日 程

11月22日 (月)

10:00 登録

(司会：清水 昭俊)

13:00 開会式

館長あいさつ 佐々木高明
 運営委員長あいさつ 藤井 知昭

(座長：清水 展)

15:00 社会的秩序と価値観 清水 昭俊
 強く、大きく、本当の「フィジー」
 の「ヴァカトゥーランガ」—

春日 直樹

討論

11月23日 (火)

(座長：王 崧興)

9:30 アルース志向の王国における階層
 化と統合化の価値と制度

染谷 臣道

ジャワにおける行為の美的規範と
 社会秩序 関本 照夫

討論

(座長：杉島 敬志)

13:00 ハイアラキーとカーヒンドゥー

社会における価値と行為—

田辺 明生

タイの支配イデオロギーの変容と
 女性の地位 小野澤正喜

カレン族共同体における秩序と豊
 饒，男と女 速水 洋子

討論

11月24日 (水)

(座長：高橋 昌明)

9:30 「恥」と「恩」—フィリピン社会論
 再考— 清水 展

位階階梯制社会における「尊重」
 概念—ヴァヌアツ，北部ラガの事
 例より— 吉岡 政徳

討論

(座長：染谷 臣道)

13:00 平等社会の指導者像—ニューギニ
 ア— 栗田 博之

総合討論 総括コメント 須藤 健一

11月25日 (木)

(座長：小野澤正喜)

9:30 「人情」と「関係」—中国社会にお
 ける人間関係の構築— 王 崧興
 春秋時代の「讓」について

高木 智見

討論

(座長：関本 照夫)

13:00 日本古代の武と文 高橋 昌明
 合戦における粗野と洗練

山本 幸司

日本中世における「悪」について
 網野 善彦

討論

11月26日 (金)

(座長：吉岡 政徳)

9:30 日本近代における〈人〉と〈家〉
 の表象 関 一敏

韓国人の行為モデル—基本礼節と
 しての「ジョムジャンタ」を中心
 に— 金 一鐵

討論

(座長：清水 昭俊)

13:00 総合討論 総括コメント

熊倉 功夫

◎文学部第12回国際シンポジウム「近代世界における日本文明—社会倫理の比較文学—」

日時 平成5年12月13日(月)

～12月20日(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは、家族・親族、友人関係などの人間関係における倫理が、近代日本文明の形成にどのような役割りを果たしたかについて、東アジア、インド、トルコ、オセアニアなどの諸社会と比較しながら討論されました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部長

内藤 貞 国立民族学博物館管理部長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

(専門委員)

Josef Kreiner ドイツ日本研究所長

Harumi Befu スタンフォード大学教授

実行委員会

(委員長)

野村 雅一 国立民族学博物館第三研究部教授

秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究部助教授

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部助手

森 明子 国立民族学博物館第三研究部助手

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究部助手

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究部助教授

加藤 建夫 国立民族学博物館研究協力課長

宇治日出二郎
財団法人千里文化財団常務理事

参加者

Harumi Befu

スタンフォード大学教授

Amy Borovoy

スタンフォード大学大学院

Selcuk Esenbel

ボスボルス大学助教授

Thomas P. Kasulis

オハイオ州立大学教授

Josef Kreiner

ドイツ日本研究所長

Kurt W. Radtke

国立ライデン大学教授

朝倉 敏夫 国立民族学博物館助手

上野千鶴子 東京大学文学部助教授

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

倉沢 愛子 名古屋大学大学院国際開発研究科教授

重松 伸司 名古屋大学大学院国際開発研究科教授

須藤 健一 神戸大学国際文化学部教授

野村 雅一 国立民族学博物館教授

日程

12月13日(月)(千里阪急ホテル)

17:00 登録

12月14日 (火) (国立民族学博物館)

- 10:00 館内見学
- 11:30 館長表敬訪問
- 13:00 開会式
- 13:10 参加者紹介
- 13:40 基調講演 梅棹 忠夫

第1セッション

「家族・夫婦・親子・きょうだい」
(座長: Josef Kreiner)

- 15:00 The Family in Modern Ethics Text-books of Meiji Japan and Ottoman Turkey, a Comparative Study
報告①: Selcuk Esenbel

16:00 討論

12月15日 (水) (国立民族学博物館)

第1セッション

(座長: Harumi Befu)

- 10:00 *Sewa Nyôbô to Sono Rinri: The Politics of Self-Sacrifice*
報告②: Amy Borovoy

11:00 討論

第1セッション

(座長: 野村 雅一)

- 13:00 日本近代と母の崩壊
報告③: 上野千鶴子

14:00 討論

第2セッション

「儒教的イデオロギーと日本的なもの」
(座長: Josef Kreiner)

- 15:30 日中両国の比較倫理研究
報告①: Kurt W. Radtke

16:30 討論

12月16日 (木) (国立民族学博物館)

第2セッション

(座長: 重松 伸司)

- 10:00 「公」と「私」の日韓比較
報告②: 朝倉 敏夫

11:00 討論

第2セッション

(座長: Selcuk Esenbel)

- 13:00 Watsuji Tetsurô's Philosophy of Social Ethics

報告③: Thomas P. Kasulis

14:00 討論

12月17日 (金)

休息日

12月18日 (土) (国立民族学博物館)

第3セッション

「倫理のよってきたるところ」
(座長: Harumi Befu)

- 10:00 行動を律する価値—オセアニアのタブーと恥—
報告①: 須藤 健一

11:00 討論

第3セッション

(座長: 朝倉 敏夫)

13:00 近代日本人のあいさつ

報告②: 野村 雅一

14:00 討論

第3セッション

「異文化のなかの日本的倫理」
(座長: 須藤 健一)

- 15:30 世論・社会倫理・コミュニティー—インド移民社会とその倫理形成—
報告①: 重松 伸司

16:30 討論

12月19日 (日) (国立民族学博物館)

第4セッション

(座長: Kurt W. Radtke)

- 10:00 異民族統治における日本的倫理の受容—日本軍占領下のジャワの場合—
報告②: 倉沢 愛子

11:00 討論

総合討論

13:30 討論

17:00 閉会式

12月20日 (月) (千里阪急ホテル)

9:30 ワークショップ

解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
杉島 敬志	助教授 (第二研究部)	5.10. 4	5.10.28	インドネシア
黒田 悦子	教授 (第四研究部)	5.10. 4	5.11. 6	メキシコ
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	5.10.10	5.10.31	中華人民共和国
松澤 員子	教授 (第一研究部)	5.10.13	5.10.27	台湾
栗田 禎子	助手 (第三研究部)	5.10.15	7.10.15	イギリス, エジプト, スーダン
新免光比呂	助手 (第三研究部)	5.10.16	5.11. 1	ルーマニア, フランス
江口 一久	助教授 (第三研究部)	5.10.20	5.11.27	フランス, カメルーン
森田 恒之	教授 (第五研究部)	5.10.24	5.11. 5	ラオス
杉田 繁治	教授 (第五研究部)	5.11. 1	5.11. 6	オーストラリア
杉村 棟	教授 (第二研究部)	5.11. 1	5.11.29	アメリカ合衆国, イギリス, スペイン, トルコ, ドイツ
松原 正毅	教授 (第一研究部)	5.11. 2	5.12. 1	トルコ, スペイン, モロッコ, チュニジア
大森 康宏	助教授 (第五研究部)	5.11. 3	5.11.25	イギリス, フランス, イタリア
上杉 富之	助手 (第二研究部)	5.11. 7	5.11.28	マレーシア, インドネシア
杉田 繁治	教授 (第五研究部)	5.11.10	5.11.13	大韓民国
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	5.11.19	5.12. 5	インドネシア, シンガポール
石森 秀三	助教授 (第四研究部)	5.11.27	5.12.13	コスタリカ, ホンジュラス, グアテマラ, メキシコ
吉田 集而	教授 (第三研究部)	5.12. 1	6. 9.30	オーストラリア
藤井 知昭	教授 (第二研究部)	5.12. 8	5.12.13	中華人民共和国
佐々木高明	館長	5.12. 8	5.12.15	中華人民共和国
田村 克己	助教授 (第二研究部)	5.12. 8	5.12.15	中華人民共和国
周 達生	教授 (第一研究部)	5.12. 8	5.12.22	中華人民共和国
塚田 誠之	助教授 (第二研究部)	5.12. 8	6. 1. 5	中華人民共和国
安村 直己	助手 (第四研究部)	5.12. 9	6. 2. 9	メキシコ, パナマ, コスタリカ, グアテマラ
大塚 和義	教授 (第五研究部)	5.12.10	5.12.27	ロシア
立川 武藏	教授 (第二研究部)	5.12.15	6. 1. 3	インド, ネパール
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	5.12.17	6. 1. 5	インド, 中華人民共和国
和田 正平	教授 (第三研究部)	5.12.19	6. 1. 8	ケニア, タンザニア
石毛 直道	教授 (第一研究部)	5.12.24	6. 1.15	インド
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	5.12.24	6. 1.15	インド
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	5.12.26	6. 1. 7	インド, バングラディッシュ

彙 報

来館者抄

10月3日 赤松 良子 (文部大臣), 吉田
大輔 (秘書官), 田中荘一郎
(文部省学術国際局研究機関課
長)

10月5日 KARIM, Nik Safiah (マレーシ
ア, マラヤ大学教養学部長)

STELLA, Moo-Tan (マレーシア,
サバ博物館)

10月14日 SOIFFER, Warren H. (アメリカ
合衆国, 駐大阪・神戸米国総領
事館領事, 大阪アメリカン・セ
ンター館長), 熊谷 俊樹 (大
阪アメリカン・センター副館
長), 佐貫 恵造 (大阪アメリ
カン・センター広報スペシャリ
スト)

金 洙 容 (大韓民国, 映画監
督)

10月18日 RESTREPO GUZMAN, Nestor
Camilo (エクアドル共和国, 国
立文化会館長)

10月22日 PRANCE, Anne (イギリス, 王
立キュー植物園長夫人)

10月24日 中華人民共和国文化相一行 劉
忠 徳 (中華人民共和国, 文
化相), 汪 大 鈞 (中華人民
共和国, 文化省対外文化連絡局
副局長), 劉 玉 山 (中華人
民共和国, 中共中央宣伝部文芸
局副局長), 周 文 英 (中華
人民共和国, 文化省対外文化連
絡局アジア処副処長), 黄 振
春 (中華人民共和国, 文化省
弁公庁処長待遇), 石 永 菁
(中華人民共和国, 文化省対外

文化連絡局アジア処幹部)

10月27日 廣田 栄治 (総合研究大学院大
学副学長)

11月5日 オスマン Z. イタム (マレーシ
ア, 国立博物館保存科学室長)

11月6日 飯島 茂 (桜美林大学国際学
部教授)

11月8日 KHOO, Boo Chia (マレーシア,
ペナン州立美術博物館長)

ISAHAKIA, Mohamed (ケニア共
和国, 国立博物館長), 石田
英実 (京大文学部教授)

11月15日 板橋 一太 (文化庁文化普及課長)

Vu Minh Giang (ベトナム社会
主義共和国, ハノイ大学史学学
部長)

PABST, Sally F. (アメリカ合衆
国, 駐大阪・神戸米国総領事夫
人)

11月18日 中国統計視察団一行 団長: 朱
向 東 (中華人民共和国, 国
家統計局中国食料・農業統計セ
ンター所長), 徐 燕 (中
華人民共和国, 国家統計局高級
統計師), 万 程 (中華人
民共和国, 陝西省統計局副統計
局長), 王 征 華 (中華人民
共和国, 河北省統計局副統計局
長)

11月25日 ニコム・ムシガカマ (タイ王国,
情報文化省芸術局次長), 浅井
和春 (東京国立博物館学芸部

法隆寺宝物室長)

王立国際問題研究所長)

- 11月26日 **HOEFFNER, Gerd** (ドイツ連邦共和国, ベルリン国立民族学博物館副館長), **STEIN, Habil Lothar** (ドイツ連邦共和国, ライプチヒ州立民族学博物館長), **MULLER, Claudius** (ドイツ連邦共和国, ベルリン国立民族学博物館東アジア部学芸員), **TREIDE, Barbara** (ドイツ連邦共和国, ライプチヒ州立民族学博物館オーストラリア・オセアニア部長)
- 11月29日 **SUBIYANTO, K. B.** (インドネシア共和国, インドネシア国立博物館指導部長), **BASUKI, H.** (インドネシア共和国, ソノブドヨ博物館長)
- 11月30日 ローランド・フエン・デン・バーグ (オランダ王国, 駐日オランダ特命全権大使) 夫妻
- 12月1日 安 志 敏 (中華人民共和国, 中国社会科学院考古研究所教授)
- 12月7日 ロンボ・サンゲー・ペンジョル (ブータン王国)
大阪・アジア文化フォーラム '93モンゴル一行
- 12月8日 劉 良 謨 (大韓民国, 韓国国立中央博物館長), 金 東 賢 (大韓民国, 国立文化財研究所保存科学研究室長), 伊藤郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館長)
- 12月9日 **MARTIN, Laurence** (イギリス,
- 12月10日 烏 恩 (中華人民共和国, 中国社会科学院考古研究所研究員), 謝 瑶 端 (中華人民共和国, 中国社会科学院考古研究所研究員), 段 珠 璋 (中華人民共和国, 中国社会科学院考古研究所研究員), 浅川 滋男 (奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室主任研究員)
- 12月14日 **Brooks, George** (アメリカ合衆国, インディアナ大学歴史学科教授), **TOTH, Nicholas** (アメリカ合衆国, インディアナ大学人類学科教授)

国立民族学博物館研究報告 18巻 総目次

18巻 1号

崎山 理：オセアニア・琉球・日本の国生み神話と不完全な子 ——アマンの起源——	1
端 信行：カメルーン高地農民の経済生活 ——その変容のメカニズム——	15
田中 雅一：漁業儀礼考 ——スリランカ・タミル漁村における地曳網漁をめぐって——	47
日比野光敏：近江のフナズシの「原初性」 ——わが国におけるナレズシのプロトタイプをめぐって——	99
Toshifumi Gotō: Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 8. <i>ard/rd</i> , 9. <i>iṣ</i> , 10. <i>ukṣ</i> , 11. <i>eṣ/iṣ</i> , 12. <i>eṣ^l/iṣ^l</i> , 13. <i>ok/oc/uc</i> , 14. <i>kaṇ</i> , 15. <i>vakṣ/ukṣ</i>	119
Catherine VerEecke: Conflict and Continuity in an African-Islamic Polity: Adamawa Emirate (Nigeria)	143

18巻 2号

杉島 敬志：二種類の植物隠喩 ——リオ族における二重出自と非対称縁組——	183
名久井文明：東日本における樹皮利用の文化 ——加工技術の体系と伝統——	221
黄 才 貴：侗族住居空間構成的調査報告	303
Paul Hockings: Ethnic Identity in a Complex Society: The Badaga Case	347

18巻 3号

南 真木人：魚毒漁の社会生態 ——ネパールの丘陵地帯におけるマガールの事例から——	375
松山 利夫：オーストラリア連邦と先住民アボリジニ ——アボリジニ政策と人々の生活体験に関するノート——	409
太田 好信：オリエンタリズム批判と文化人類学	453
Etsuko Kuroda: Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s	495

18巻4号

秋道 智彌：航海術と海の空間認識 ——中央カロリン諸島・Satawal 島における事例——	543
久保 正敏：篠田資料・鮮アンケートの予備的分析	593
大島 新一 日比野光敏 和田 光生	
西川 麦子：バングラデシュ農村における一方的贈与と社会関係 ——タンガイル県，M村のムスリム集落の事例より——	649
Said A. M. Khamis：From Oral to Written Form: A Tentative Study of the Development of Swahili Poetry	697

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 18巻4号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

朝 倉 敏 夫

江 口 一 久

近 藤 雅 樹

崎 山 理 理

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

田 村 克 己

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

松 山 利 夫

吉 田 集 而

平成6年3月31日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 18巻4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.18 no.4
1993

AKIMICHI, Tomoya **Cognition at Seas: Navigational Knowledge in Satawal, Central Caroline Islands, Micronesia**

KUBO, Masatoshi
OSHIMA, Shin-ichi
HIBINO, Terutoshi
WADA, Mitsuo **A Preliminary Analysis of Shinoda's Sushi Questionnaire**

NISHIKAWA, Mugiko **One-Way Gifts and Social Relations Among Rural Muslims in Bangladesh: A Case Study from a Village in the Tangail District**

KHAMIS, Said A. M. **From Oral to Written Form: A Tentative Study of the Development of Swahili Poetry**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X